



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2022年05月09日 第1067号「週刊五十嵐レポート」

変わらなきやいけないのは俺たちの方

5月6日朝日新聞夕刊、『障害者が農業を救う』なぜ(野菜農家・京丸園 鈴木厚志社長)の記事。農業の世界では、種まきから収穫までの作業を1人でできて一人前だと思っていた。でも、すべての作業をできない人でもたくさんある仕事の中でうまくできることもある。

特別支援学校から卒業生を採用。ところが、トレーを洗うことができない。学校に苦情を伝えると教諭は「どういう指示を出したのか」と聞いた。「きれいに洗ってくれ」と指示を出したという、「それじゃダメだ」と怒られた。「トレーをスポンジで5回こすったら、右手に置く。次のトレーに移りなさい」と教諭のアドバイス通りにすると、声を出して教えながら仕事をどんどん進めた。

そこで初めて気がついた。「なんだ、指示の出し方が悪かったのか」と。農業は経験と勘の世界だった。「『ちゃんと水をかけておいて』とか『ちゃんとやっておいて』とか、抽象的な言葉しか出てこない。それが作業指示だと思っていた。見て覚えろ、やって覚えろ。でも、そんなものは作業指示でも何でもなかった」。

相手に伝わるように指示しなければ、伝わらない。「なるほど、変わらなきやいけないのは俺たちの方か」。福祉のノウハウを借りて、教え方をまとめ、マニュアルを作った。障害者だけでなく、誰でも働けるようになる。これができれば農業は強くなる。

小さな会社の生産性が低い原因の一つは、マニュアル(「業務規則集」)がないこと。まさしく「経験と勘」の世界。見て覚えろ。小さな会社に来る従業員は、大企業に入る人たちとはレベルが違う。そこに業務規則集や定期的な従業員教育がなければ、それぞれ各々が勝手に作業することになる。そうなるとうるさくようなロスが生まれ、業務効率が悪くなり、利益は出ずらくなる。社長が朝礼や会議に、有難い話や「仕事の質を高めろ」「原価意識を持って」「利益意識を持って」など言っても成果に結びつかないことがこれでわかる。

「経験と勘」。日本経済の足を引っ張っているのが中小企業と言われている原因の一つではないか。「見える化」(より具体的な業務手順)をどう作るか。

ちょっと
気になる出来事

5月7日付朝日新聞「GW大出、コロナ前並み」という記事。

緊急事態宣言などコロナウイルスの感染拡大に伴う行動制限が3年ぶりにならない大型連休となり、全国の主な駅や観光地の5月3日～5日の人出は、昨年や一昨年より大幅に増えたことがわかった。多くの時点でコロナ禍前の2019年の水準に戻っている。

5月3日、墨田区押上(東京スカイツリー)から台東区浅草(浅草寺)まで歩いてみた。途中の水町(ミズマチ)の店舗は行列、浅草は、今まで見たことのないほどの人の多さ。これはコロナ禍前を超えている。

新聞を見て、やはりそうだったんだと確信した。

第6波の収束がないまま、不安視されていることも多々あるが、日本は「with コロナ」で経済を動かしていくことが大事ではないのか。

ただでさえ、円安、資源高、ウクライナ侵攻、さらに中国ゼロコロナ対策等により、経済は悪い方向に進んでいる。経済は世界と繋がっていることを痛感する。

世の中、どれが正しい・悪いではなく、各国・各民族の価値観を尊重してそれぞれ対応していくことが大切と思い始めた。



一口メモ
知識

感応する

二氣(にき) 感応してもって相与(あいくみ)するなり。

沢山威(たくさんかん)の卦(か)は「威」は「感」の古字。祝詞(のりと)を収めた器の口を鍼(はり)で封じて、神の感応を待つところから、感通・感動・感覚・感化・感触・感和の意味が生じた。

「二氣(にき)」とは陰と陽の気。

二氣が交感して万物は形成される。

恋愛、結婚も二氣の交感である。もともと質が違い、

反発し合う二氣であればこそ、感応し合い、相与(あいくみ)するのである。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

榎五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

